

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846
鳥取市扇町21番地
東教発 H28. 3. 1 No.136
http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/

Tobu通信

すべてはチームから始まる

鳥取市立中ノ郷中学校



～協働的な学校文化の創造～

中ノ郷中学校では、学校教育目標の実現に向けて教科会と各分掌の活性化に取り組んでいます。教職員のアイデアを引き出し、つなげて形にするアクティブプランの作成が、全教職員の協働を生み出しています。



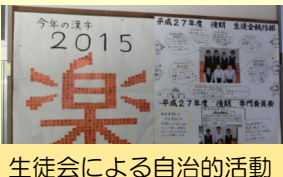
各チームの取組例

- 研究推進部
教科主任研修会
(教科会充実のために)
- 学びづくり部
中ノ郷中スタンダード
- 人間関係づくり部
生徒会による小学校への出張劇
- 健康づくり部
ドアをノックふれあい週間
グッスリ・スッキリ・ガツッリ大作戦

アクティブプラン

平成27年度第2期(8月～12月) 研究推進部 アクティブプラン 鳥取市立中ノ郷中学校	
平成27年度Ⅱ期 人間関係づくり部 アクティブプラン 鳥取市立中ノ郷中学校	
平成27年度Ⅱ期 健康づくり部 アクティブプラン 鳥取市立中ノ郷中学校	
学校教育目標	感謝忘れず未来を生きぬく人間力と学力をもった生徒を育成する
本年度の重点努力事項(中学生徒5原則)	①BUIボリュームゾーンづくり ②全校出席の達成 ③夢や希望を語る生徒の育成
めざす生徒像(中学生徒5原則)	①「感謝」できる生徒 ②「ふだん」の力を身につけた生徒 ③「読書」に楽しむ生徒 ④「主体的に学習」する生徒 ⑤「家庭・地域の役に立つ」ことのできる生徒
人間関係づくり部の目標	①学級・学年・全校の生徒と教師の信頼関係の構築。 ②各分掌の主体的な活動、各分掌のリーダーシップの発揮、各分掌の協働による学校全体の活性化。
健康づくり部の努力点	①食生活の改善による健康・体力の向上。 ②心身の健康について正しい知識をもち、適切な判断と行動選択ができる。
健康づくり部の努力点	①食生活の改善による健康・体力の向上。 ②心身の健康について正しい知識をもち、適切な判断と行動選択ができる。

チーム発のプランを全校で共通実践



生徒会による自治的活動

教師自ら設定した評価基準を達成する充実感は、さらなる挑戦に向かう原動力となります。そして、一人一人の教師が主役となり、協働的な学校文化を創り出すことで、学校全体にいきいきとした空気を吹き込んでいます。こうした教師の取組は、子どもの主体的・協働的な学びの実現にもつながります。

「協働」

局長 杉本 仁詞

今年の仕事始めは、八頭郡小学校管理職研修会でした。テーマは“教職員の「協働」を高める”でした。

「協働性の高い組織(チーム)」について、広島大学曾余田浩史准教授は次の三つのレベルで述べています。(教職研修[教育開発研究所]より抜粋)

第一レベル：仲がよい組織

第二レベル：「何をめざすか」「いかにするか」を考えて協力し合って行事やプロジェクトを進める組織

第三レベル：「何のためにやっているのか」「どこをめざせばよいのか」と互いに問い返しつつ自校の教育を練り上げていく組織

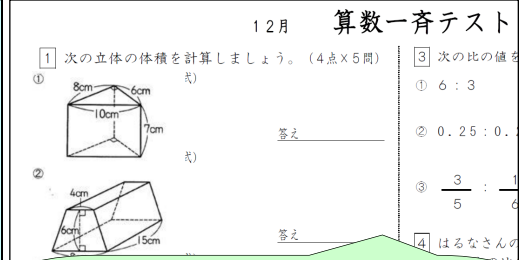
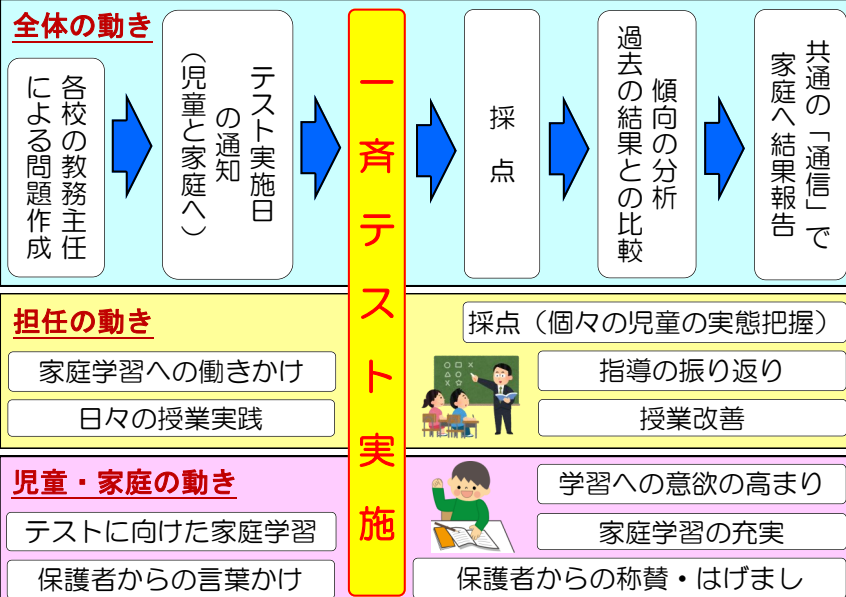
本年度の学校訪問を振り返ってみると、多くの校長先生方が「協働」について意識されており、実際にその姿を見ることができました。例えば、研究発表に向かいながら抜群のチームワークを発揮して学校力を高めている学校。核となる教職員を中心として分掌組織を活性化させ、活力のある学校運営がなされている学校。若手とベテランが協力して練り上げた素晴らしい授業実践をしている学校。このように、忙しい中であって、普段から各学校で教職員同士がしっかりとコミュニケーションを取りながら、話し合いを積み重ね、共通の目標に向かって自校の教育を練り上げていく様子が伝わってきました。協働性を高めるためには、新しい教育の動向を注視し取り入れながら、私たちが大切にしてきた不易の部分である教職員文化を継承していくことも重要であると感じています。

「協働」を学校評価の視点の一つとして、その質を高めていくことが、教職員の力量を高めることになり、また、児童生徒の学力向上やいじめ・不登校問題の減少等につながっていくのだと思います。

小・小連携

中学校区で取り組む一斉テスト

学力向上の取組の一つとして、年2回（7月と12月）、校区の全ての小学校で共通問題による「一斉テスト（国語・算数）」を全学年で実施している中学校区があります。一斉テストをきっかけに子どもの家庭学習が充実したり、教師の指導の振り返りが行われたりといった成果が見られています。



基礎的な問題が中心だが、平成26年度から、全国学力学習状況調査のB問題（過去問題）も意識して出題している

中学校区共通の「家庭学習の手引き」ラミネート加工したものを全児童・生徒に配布（低、中、高、中1・2、中3の5種類準備）



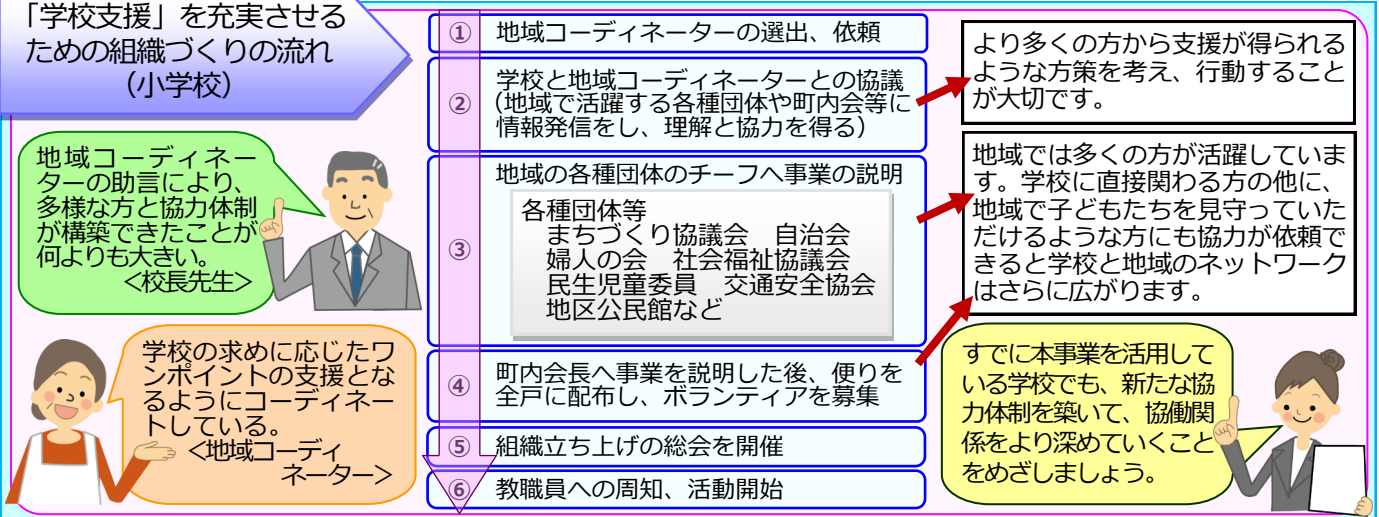
中学校区の全ての小学校で、意図的・計画的に作成された自作の一斉テストに取り組み、その結果をもとに「学び直し」「基礎的な内容の定着」「活用」を意識した授業づくりを行っていくことで、統一性のある授業改善を進めていくことができます。これは、児童の学力向上だけでなく、学びの土台づくりにつながり、中学校での学習の充実も期待できます。

社会教育コーナー

学校と地域の連携・協働、今後の在り方は？

～「地域で育む学校支援ボランティア事業」新規活用校の取組より～

昨年12月に中央教育審議会は、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の答申を行いました。時代の変化に伴い、その重要性や必要性が今まで以上に指摘されています。地域の様々な組織や人材と連携し、協働を深めながら「地域で育む学校支援ボランティア事業」（以下「学校支援」）に取り組んでいる事例を紹介します。



地域の様々な専門性を持つ人たちと連携・協働して学校支援ボランティアの取組を充実させることは、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」につながっていきます。教職員自身も「地域の未来を担っている」という使命感と気概をもって子どもたちと関わっていききたいものです。